

日本原子力学会 第134回倫理委員会
議事録

1. 日 時：2022年11月4日（金）13:30～16:10
2. 場 所：Web会議
3. 出席者：大場委員長、福家副委員長、神谷幹事、池田委員、伊藤委員、金谷委員、小林委員、
中村委員（委員13名中8名出席）
後藤特別委員、林特別委員、山岡特別委員

4. 資 料：

- 倫 134-1 前回議事録（案）
- 倫 134-2-1 倫理委員会活動計画
- 倫 134-2-2 倫理委員会役割分担表
- 倫 134-2-3 倫理委員会のあり方等に係る議論項目（案）
- 倫 134-3-1 2023年春の年会企画セッション提案書フォーム
- 倫 134-3-2 2023年春の年会 倫理委員会企画セッションについて（議論用メモ）
- 倫 134-4 研究機関の安全文化醸成活動について
- 倫 134-5-1 倫理規程制定20年シンポジウム 学会誌投稿案
- 倫 134-5-2 倫理規程制定20年シンポジウム議事録（HP掲載用）

5. 議事概要：

(1) 前回議事録について

神谷幹事から資料134-1に基づき説明があり、誤記を修正する前提で了承された。

(2) 活動計画および役割分担について

福家副委員長から資料134-2-1、134-2-2に基づき説明があった。

(3) 2023年春の年会企画セッションについて

企画セッションのテーマについて、前回委員会の議事録からの抜粋及び事前にメールで寄せられた意見をまとめた資料134-3-2に基づき、議論を行った。主な議論は以下のとおり。

- ・20年シンポジウムのフォローアップという位置づけで実施するのはよいのではないか。
- ・安全文化の捉え方は組織によって、立場によって、あるいは時期によっても異なるので、テーマとして取り上げるのはよいのではないか。
- ・「経営者の倫理」と狭くとらえるのは、経営者が年会にはあまり参加していないこと、会場との幅広い議論という観点から適切ではないのではないか。参加者に伝わる内容であることが必要。
- ・確かに経営者の方が少ないが、種々のベクトルでの意見を確認することは重要ではないか。
- ・電気事業者から講演いただくことは厳しいのではないか。
- ・ドイツの「倫理委員会」での脱原発の議論や最近のドイツの動向については関心がある。一方、原子力学会の倫理委員会は原子力を利活用することに立脚した委員会なので、位置づけが全く

異なり、倫理委員会の企画セッションのテーマとして取り上げるのは適切ではないのではないか。

- ・企業の不祥事に係る第三者委員会の事務局として対応した実績のある、原子力にも詳しい弁護士事務所の識者に依頼するという案があり得る。

以上の議論を踏まえて、以下のアクションを進めることとした。

- ・テーマとしては20年シンポジウムのテーマ2「私たちの意識と行動」（業務において、組織文化や安全文化はどのように意識され、行動となっているか。どのような行動をとっていくのが良いか。）をベースとする。
- ・内容としては、原子力事業者の企業文化にも詳しい識者からの講演と講演に基づく事業者、会場とのディスカッションのような構成で検討する。
- ・講演の候補となり得る識者へは大場委員長から打診を進める。
- ・座長は大場委員長が担当する。
- ・担当については、最近の企画セッションを主担当していない委員の中で調整いただくこととし、調整の音頭取りを中村委員にお願いする。
- ・11月16日締め切りとなっている提案書については、上記と並行して神谷幹事、大場委員長でドラフトを作成し、担当が決まったら引き継ぐこととした。

(4) 研究機関の安全文化について

伊藤委員から資料134-4に基づき説明があった。資料に対するコメントを伊藤委員に連絡することとし、引き続き検討していくこととした。主な議論は以下のとおり。

- ・委員会としての検討がまとめれば、年会・大会の企画セッションで取り上げて、区切りとするのがよいのではないか。
- ・今後の検討かも知れないが、委員会で検討したことが明確になるようにした方がよい。
- ・研究機関の特徴をレポートの最初の方で明確にした方がよいのではないか。客観的に記載できるとよい。
- ・本件議論を、倫理委員会の次の活動にどう繋げていくのかも議論した方がよい。
- ・大きな流れとしては、電気事業者の安全文化、メーカーの安全文化、研究機関の安全文化というステップで議論してきていると思う。
- ・検討の結果は、倫理規程の改定に還元することが基本としてはあると思う。

(5) 倫理委員会のあり方等について

大場委員長からの問題提起に基づき、倫134-2-3に基づきフリーディスカッションを行った。次回委員会でも引き続き議論することとした。

(6) その他

- ・神谷幹事から、資料134-5-1及び134-5-2に基づき、倫理規程20年シンポジウムの学会誌投稿記事案、HP掲載議事録の紹介があった。準備が整い次第、HPへの掲載を進めることとした。なお、学会誌投稿記事案に係る編集委員会からのQR（クイックレビュー）において、倫理委員会の横串を通した今後の活動への期待等のコメントがあったことを共有した。

- ・ 神谷幹事から、10月28日に学会理事会から公表された「GX（グリーントランスフォーメーション）に向けた社会への貢献について」に倫理に係る活動についての記載があることの紹介があった。

6. 次回：12月中旬の開催として、別途調整することとした。

以上